

高槻 まちかど遺産 H25-3



布屋屋敷跡と大イチョウ

布屋ぬのやは江戸後期の富豪で、天保10年(1839)の文書には、当時富田にあった酒造家6軒が記され、その中に布屋の名がみえます。

布屋の勝田家は、文人・頼山陽らいさんようと交流があり、別荘「遊騁樓ゆうていろう」へ山陽が寄宿した記念文のお礼に、布屋の美酒を贈ったとの逸話があります。

この路地奥の右手、屋敷跡の庭には、神の化身で酒とも関わりが深いという白蛇「巳みさん」を祀る祠まつほこらと、巳すみかさんの住処とされる大イチョウが残されています。

平成26年3月 高槻市教育委員会

布屋屋敷跡と大イチョウ

布屋(ぬのや)は、江戸後期の富豪で、天保10年(1839)の文書には、当時富田にあった酒造家6軒が記され、その中に布屋の名がみえます。

布屋の勝田家は、文人・頼山陽(らいさんよう)と交流があり、別荘「遊騁楼(ゆうていろう)」へ山陽が寄宿した記録文のお礼に、布屋の美酒を贈ったとの逸話があります。

この路地奥の右手、屋敷跡の庭には、神の化身で酒とも関わりが深いという白蛇「巳(み)さん」を祀る祠と、巳さんの住処(すみか)とされる大イチョウが残されています。

平成26年3月 高槻市教育委員会



2022年5月6日撮影写真

※ 布屋の屋号を持つ勝田家は、江戸時代の富豪であり、その屋敷跡に富田町役場がおかれた。高槻市と合併後も富田支所として使われていたが、昭和53年に現在のコミュニティセンターに移り跡地が住宅となった。今も屋敷跡には、大きなイチョウの樹と根元に祠があります。